

1. 月間の収支状況

(1) 自宅通学者の収入

- ・収入総額の平均は6.8万円で、その大半はアルバイト収入によるものであった。
- ・親から小遣いをもらっている学生は4人に1人で、平均額は1.6万円であった。
- ・奨学金をもらっている学生は29.1%と、前回調査(09年)より9.6ポイント減少し、平均額は5.6万円となった。卒業後に返済する借金となる奨学金の受給は、必要最低限にとどめたいと考えているのかもしれない。

(2) 自宅外通学者の収入

- ・収入総額の平均は11.1万円であった。仕送りを受けている学生は全体の約6割で、前回調査より13.9ポイントの大幅減となった。理由として「親の減収」との声もあり、景気悪化による親の経済状況の変化が、学生生活にも影響を及ぼしているようだ。
- ・こうした仕送り減をカバーするためか、奨学金を受給する学生は前回調査より7.9ポイント増加し、52.3%と半数に達した。奨学金に頼らざるを得ない状況にあると思われる。

(3) 貯蓄への意識

- ・「毎月貯蓄している」との学生は、自宅通学者の63.7%、自宅外通学者の43.9%と、いずれも前回調査より増加している。
- ・しかし、毎月の貯蓄平均額をみると、前回調査では自宅通学者2.6万円、自宅外通学者2.3万円であったが、今回は自宅通学者2.1万円、自宅外通学者1.9万円と、いずれも減少している。
- ・収入が伸び悩む中で、わずかな額でも捻出して貯蓄に励むという堅実な学生が増えているのだろう。将来に対する不安を反映したか

のような結果であった。

図表-1 毎月の収支平均額 (n=223)

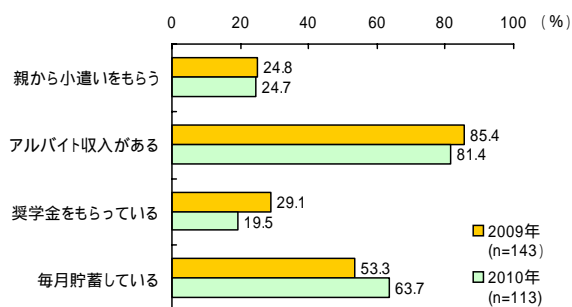
(単位:万円)

	全体	自宅通学者	自宅外通学者
収入総額	9.1	6.8	11.1
親からの援助 (小遣い・仕送り等)	2.2 [5.0]	0.4 [1.6]	3.6 [5.5]
アルバイト	4.2 [5.3]	5.0 [5.5]	3.6 [5.1]
奨学金	2.4 [6.0]	1.2 [5.6]	3.4 [6.1]
その他	0.3	0.2	0.5
支出総額	9.1	6.8	11.1
家賃	1.9	0.0	3.5
食費	1.5	0.7	2.2
学習費(授業料除く)	0.4	0.3	0.5
通信費	0.7	0.6	0.9
ファッション費	1.1	1.4	0.9
娯楽費	1.3	1.3	1.3
貯蓄	1.2 [2.0]	1.5 [2.1]	0.9 [1.9]
その他	1.0	1.0	0.9

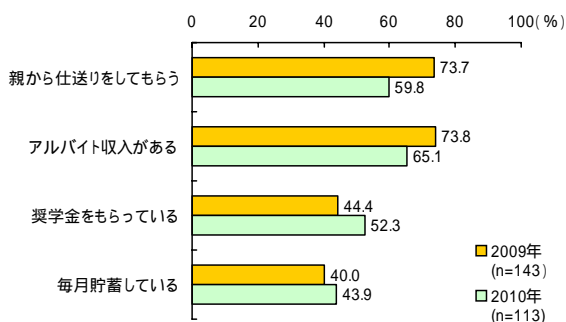
(注) 各数字は全回答を単純平均したもので、[]内は「ゼロ」との回答を除き単純平均したものの。

図表-2 各項目に該当する学生の比率

自宅通学者



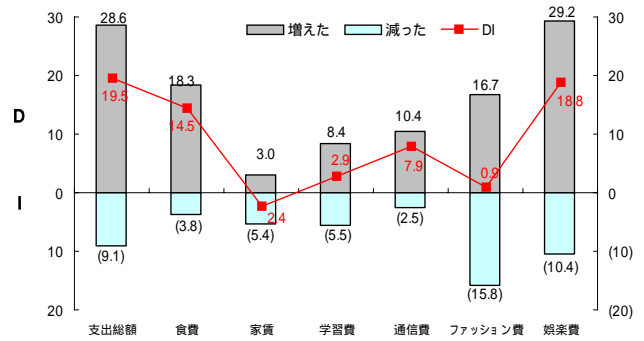
自宅外通学者



(4) 1年前と比べた支出増減

- ・1年前と比較した支出総額は、全体の3割弱が「増えた」と回答し、DIは19.5となった。
- ・費目別では、家賃を除く全費目でDI値がプラスであり、収入が減少する一方で、支出は増加傾向にある。特に、娯楽費や食費、通信費が増加している。

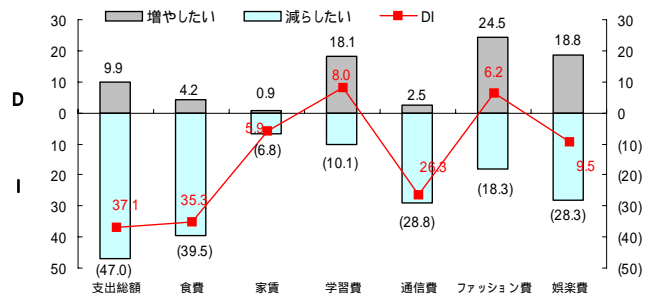
図表-3 1年前と比べた支出増減 (n=240)



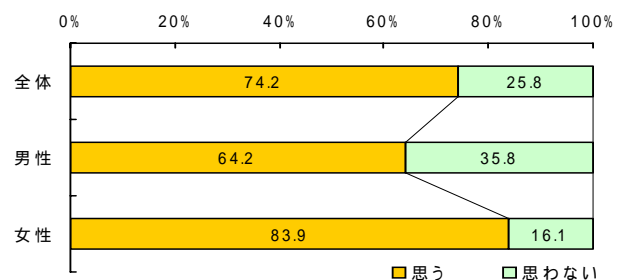
(5) 今後の支出意向

- ・支出総額を「減らしたい」人が47.0%と半数近くに達し、DIは37.1と根強い支出抑制傾向が明らかとなった。「就職活動に備えて貯金したい」との理由が多く、今後の生活を考えてコツコツ準備する学生も少なくない。
- ・内訳をみると、食費や通信費、娯楽費を減らしたいとの意識が強いようだ。ただ、これらは1年前と比べて支出が増えた費目の上位3つであり、「減らしたいが減らせない」という理想と現実のギャップが感じられた。
- ・学習費やファッション費はDI値がプラスであり、“自分磨き”にかかわる費目への支出は惜しまない傾向にあることが分かった。

図表-4 今後の支出意向 (n=240)



図表-5 学生の中に海外に行きたいか (n=244)

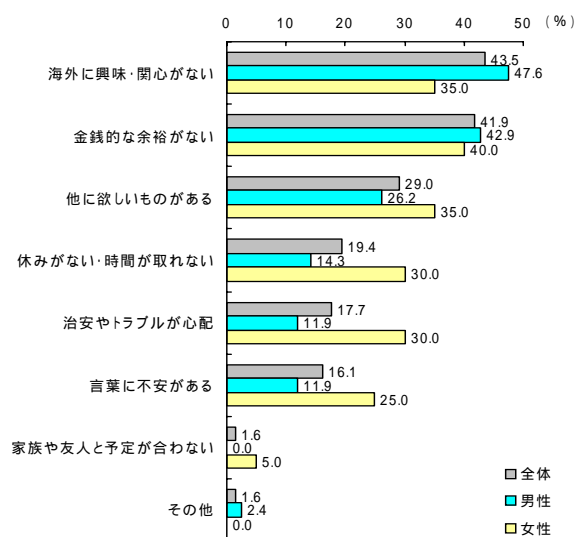


2. 高額消費に対する意識

(1) 海外旅行

- ・海外旅行未経験者は全体の約6割に上るが、学生の中に海外に行きたいという人は7割を超え、若年層は海外旅行に対して一定の意欲を持っていると思われる。男女別では、男性64.2%、女性83.9%と19.7ポイントの差があり、男性は女性よりも海外旅行に消極的な傾向が見て取れる。
- ・海外旅行に行きたいと思わない理由は、「海外に興味・関心がない」(43.5%)、「金銭的な余裕がない」(41.9%)が上位となった。海外への興味・関心が薄いため、高額な費用をかける価値を見出しにくいようだ。

図表-6 海外に行きたくない理由 (n=62)



(2) 自動車

- ・免許を持つ学生は全体の約7割に上るが、自分専用もしくは家族の車を恒常的に利用する学生は、全体の3割強にとどまった。免許証は身分証明書となるため、車に乗りたいからというより、将来必要になるモノの1つという感覚で取得しているのかもしれない。
- ・しかし、自分の車を買おうと思う時期については、約4割が「社会人になってできるだけ早く」、3割強が「社会人になって貯金ができた」と回答。今は費用面などがネックであるものの、いつかは自分の車を手に入れたいと考える学生が多いようだ。

3. 中古品に対する意識

- ・中古品の売買経験については、全体の62.4%が「売買いずれもある」と回答。「売買いずれかのみ」との回答も加えると全体の9割近くに上ることから、中古品への抵抗感は薄いことが見て取れる。
- ・しかし、女性では「売買いずれもない」人が21.1%と、男性の回答率を16.1ポイント上回る。中古品への抵抗感には男女差があり、特に、女性は抵抗を感じる人も少なくない。

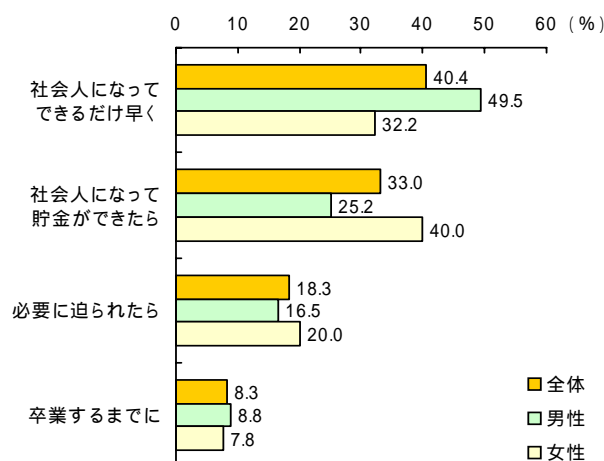
おわりに

本アンケートの結果から、県内の大学生は収入に見合った消費を心掛けており、将来を見据えて貯蓄に努めるなど、堅実な一面がうかがえた。それゆえに「若者＝消費に消極的」との見方もされるが、若者に海外旅行や車の購入に対する意欲がないとは言い難く、この図式は必ずしも当てはまらないようだ。

今の学生の消費姿勢は、自分の価値観に照らし合わせて納得できれば支出を惜しまないが、中古品なども上手く活用して、支出を抑制することも忘れないという特徴があるのではないだろうか。今回の結果を見る限り、「若者＝メリハリ消費」という図式が成り立つように思われる。

(河野 静香)

図表-7 自分の車を買おうと思う時期 (n=218)



図表-8 中古品の売買経験 (n=242)

